

I 「ですから、愛されている子どもらしく、神にならう者となりなさい」：1。

1. ここでも大切な事は、神にならう者となる前に、神の恵みの先行、神に愛されている子供である事の自覚、感謝です。私達が思っている以上に私達は神に愛されているのです。→「神に…愛されている者として、あなたがたは深い同情心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい」（コロ3：12）。

「神に愛されている人々」（ローマ1：7）。

「神に愛されている兄弟たち」（Iテサ1：4）。

悪魔が、この愛を疑わせる（私なんか神に愛されていないと）時、この5：1を包んでいる4：32の御父の愛と5：1後半のキリストの愛を忘れないで、見つめましょう→「神がキリストにおいてあなたがたを赦してください」4：32と「キリストもあなたがたを愛して、私たちのために、ご自身を神へのささげ物、また供え物とし、香ばしいかおりをおささげになりました」5：2。御父は大切なひとり子をお与えになったほどに、そしてキリストはご自分の命をお与えになったほどにあなたを、私達を愛しておられるのです。

2. こんなに神に愛されている子どもらしく、「神にならう者となりなさい」：1。

私達を心から愛しておられる神にならうとは＝神に背き敵対していた私達を愛し救い赦して下さったように→「あなたの敵を愛しなさい。…あなたをのろう者を祝福しなさい。あなたを侮辱する者のために祈りなさい。…そうすれば、あなたがたの受ける報いはすばらしく、あなたがたは、いと高き方の子ども（神にならう、神に似ている子供）になれます。なぜなら、いと高き方は、恩知らずの悪人（私達もそうだった。しかし、今は神に愛され救われている！驚くべき恵み！）にも、あわれみ深いからです。あなたがたの天の父があわれみ深いように、あなたがたも、あわれみ深くしなさい。さばいてはいけません。そうすれば、自分もさばかれません（人を正しくさばくのは、神ご自身）。…赦しなさい（まず、自分自身が神に赦されたように）。そうすれば、自分も赦されます（これは、赦しの条件ではなく、人を赦さない罪が赦され、神との関係が回復するの意）。与えなさい（私達に今、与えられているものは、すべて、神からいただいている事を忘れず、感謝しつつ、必要を覚えている人に喜んで与える）。そうすれば自分も与えられます（神は、すべてをご覧になり、与えられた物を、独り占めにしない人に、また恵みを与えられる。その人は神に感謝し、また神と人に奉げる。その霊的な流れは、欲で濁らず、うるわしい与える流れが続く。※死海と綺麗な川の違い）。（ルカ6：27-38）。

II 「また、愛のうちに歩みなさい」：2。

1. 主から離れた私達は、無慈悲、憤り、怒り、叫び、悪口、悪意の内を歩んでいます。

2. しかし、神に愛され赦され続ける時、神の愛のうちに歩めるのです。まず神の愛のうちにとどまる事が大切です。「わたしの愛のうちにとどまりなさい」（ヨハネ15：9）。

3. この愛、アガペーとは＝「愛は寛容（短気でなく気長、長い苦しみにも寄り添う）であり、愛は親切（いつくしみ深い）です。また人をねたみません（人と比べず、神が自分に与えられたものを感謝する）。愛は自慢せず、高慢になりません（何かが出来た時、その力を与えられた神に感謝し、支えてくれた人にも感謝する）。礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず（自己中心ではなく、神と隣人を愛する）、怒らず、人のした悪を思わず（人がしてくれた良い事を思い感謝する）、不正を喜ばずに真理（真理の御言葉、真理である主ご自身を）を喜びます。すべてをがまんし（自分の力で我慢し過ぎ心で恨むのではなく、愛を持って真実を語り、すぐには変わらない相手を神の愛を祈り求め忍耐する）、すべてを期待し（過度の期待で相手を追い込むのではなく、ちょうど良い励ます期待）、すべてを耐え忍びます（辛い所からすぐに逃げずに、その辛い中に共におられる主にとどまる）。愛は決して絶えることはありません」（Iコリ13：4-8）。

Ⅲ 神にならい自分を侮辱する、難しい人を愛する愛の源、原動力→

「キリストもあなたがたを愛し、私たちのために、ご自身を神へのささげ物、また供え物とし、香ばしいかおりをおささげになりました」：2。

1. 「キリストも」私達を愛しておられます。まずキリストが敵対していた私達を愛された。

今も愛しておられる。この自覚が大切です。その為に毎日、御言葉を味わう事が必要です。

パウロの自覚、確信＝「いま私が肉にあって生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです」(ガラ2：20)。

人のした悪から目を離し、この主から目を離さないのが信仰です。

2. キリストの私達への愛の現れ→「私たちのために、ご自身を…おささげになりました」。

私達の救いの為の主の自己否定、自己放棄、自己犠牲。ご自身を神への

①「ささげ物」＝主は私達の救いの為に神の律法を全うする為に完全な従順な御生涯を神に奉げられました。

②「供え物」＝いけにえ。血を流す供え物。主は私達の罪をすべて償う為に十字架で血を流し、いけにえとなられた。「あなたは、いけにえやささげ物を望まないで、わたしのために、からだを造ってくださいました。

あなたは全焼のいけにえと罪のためのいけにえとでは満足されませんでした。そこでわたしは言いました。『さあ、わたしは来ました。聖書のある巻に、わたしについてしるされているとおり、神よ、あなたのみこころを行うために。』ヘブル10：5-7。

③「香ばしいかおり」＝神が全焼のいけにえを喜び受け入れてくださるかおり。創世記8：21、

出29：18、レビ1：9。神は旧約時代の動物のいけにえでは、人々の罪の完全な償いとしては満足されませんでした。それほど私たち人間の罪は重かった。しかし、神の子羊であるキリストの十字架の死、血は神の義を完全に満足させ喜び受け入れられる香ばしいかおりとなったのです。

Ⅳ こんなに愛して下さる神への応答。愛のうちに歩む。神の恵みへの感謝から生まれる→

1. 神への愛。神への礼拝、献身、日々の歩みで、御心に従う。

2. キリスト者の互いの愛。憤り、悪口、悪意を捨て、互いに愛し合い赦し合う。主にある一致を保ち、主の教会を建て上げる。

3. 主を知らない人々を神の愛で愛し、福音を生活と言葉で伝える。与えられた機会を大切に。

「宣べ伝える人がいなくて、どうして聞くことができるでしょう」ローマ10：14